

環境への取り組み

ハリマ化成グループは、「自然の恵みをくらしに活かす」を基本理念に創業以来、再生可能な植物資源「松」から得られる有用物質を人々の生活に役立つ製品に変えてお届けすることにより、循環型企业として事業展開しています。

地球環境の保全に向けて

環境に関する基本的な考え方

環境汚染の防止、環境負荷の低減に積極的に取り組み、全社で環境経営を推進しています。

ハリマ化成グループ 環境方針

(2013年5月15日改定)

私たちは、「自然の恵みをくらしに活かす」を企業理念とし、一人ひとりが環境方針に基づき環境保全活動を積極的かつ継続的に推進します。

1. パインケミカル※1事業が、再生可能な天然資源の有効利用であることを意識し、生産から利用、廃棄に至るまで環境にやさしい商品の開発に努めます。
2. ハリマ化成グループが行う事業活動、製品、サービスに係わる法規制、協定およびグループ各社が同意したその他の要求事項を順守し、汚染の予防に努めます。
3. ISO14001に基づく環境マネジメントシステムの継続的改善を図るとともに、環境目的・目標を設定し、環境実績の改善に努めます。
 - ①環境負荷の低減(エネルギー、廃棄物、環境汚染/大気水質)
 - ②有害化学物質の適正管理
 - ③緑地の保全管理
4. 環境教育・啓蒙活動を通じて、ハリマ化成グループで働くすべての人への環境方針の理解と意識の向上を図り、社内外において環境に配慮した行動をします。
5. この環境方針は、関係企業、地域の住民の方々などの利害関係者および一般の人々にも開示します。

地球温暖化防止への取り組み

地球温暖化防止に関する基本的な考え方

私たちは、くらしや産業の中で毎日たくさんのエネルギーを使っています。しかし、原子力発電を除くと、エネルギーの中心となっている石油や石炭、天然ガスなどの化石燃料のほとんどを海外からの輸入に頼っている状況です。今後も安定的にエネルギーを確保していくため、化石燃料に替わるエネルギーの確保が課題となっています。

再生可能エネルギーは、自然界で繰り返し起こる現象から取り出すことができ、枯渇することなく、持続的に利用できるエネルギー源です。自然との関わりが深いハリマ化成グループにとっては、最重要課題として再生可能エネルギーの有効活用に取り組み、CO₂排出量の削減に積極的に取り組んでいます。

CO₂排出量の状況

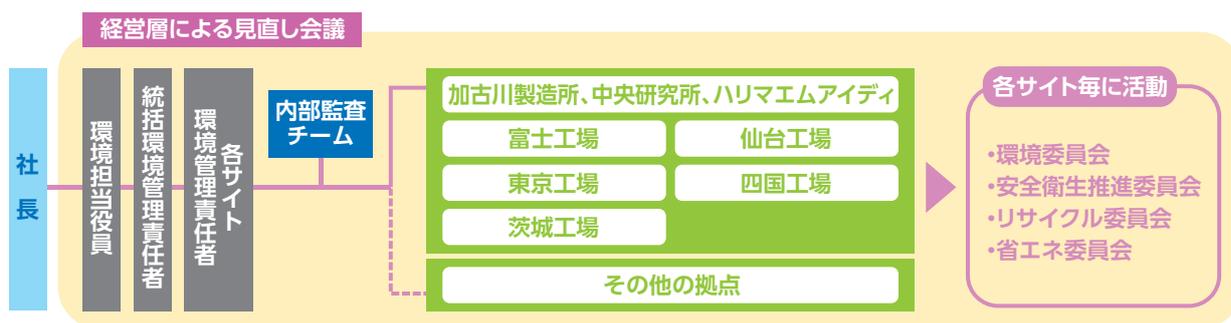
ハリマ化成は創業以来、粗トール油※2を精製した後の副産品(以下、バイオマス燃料※3)を燃料として利用しています。2005年度からバイオマス燃料の有効利用をさらに推し進めバイオマス発電を稼働させることで、2009年度からはバイオマス燃料が全エネルギー使用量の6割を越えています。

バイオマス燃料は、CO₂排出量がゼロと認められていますので化石燃料使用の場合に比べてCO₂排出量を大幅に削減したことになります。バイオマス発電設備から発生する蒸気と電力は、加古川製造所のエネルギーすべてを賄い、余剰電力を再生可能エネルギー※4として電力会社に販売しています。その結果、従来購入電力分と売電分に相当するCO₂排出量が削減できています。

2015年度のCO₂排出量は、バイオマス発電設備以外のボイラーにおいて、灯油の使用が増加したため、2014年度比3.4%と増加しましたが、省エネ活動を推進し、バイオマス発電を順調に稼働させることによりCO₂排出量削減を進めていきます。

環境管理体制

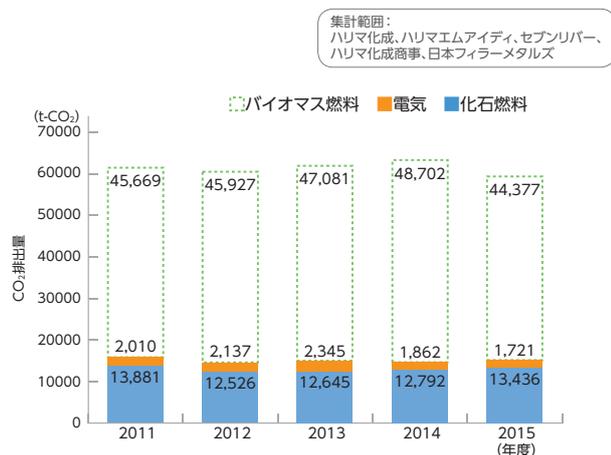
ハリマ化成は、各サイト毎に委員会、分科会を設置し、活動計画の審議や活動結果の評価、改善を行っています。



さらに、地球温暖化問題を重要課題として認識し、CO₂排出量削減にも積極的に取り組んでいます。

■CO₂排出量の推移

バイオマス燃料の利用により、CO₂排出量を削減した値を考慮して以下のグラフを作成しています。



▲バイオマス発電設備

■物流部門での取り組み

エネルギーの使用の合理化に関する法律(2006年4月施行)の定める特定荷主として、輸送時に伴うエネルギー使用量の把握と省エネルギーの計画を立てています。

ハリマ化成の物流はすべて委託していますので、物流会社と協力しながら、輸送時におけるエネルギー使用量の削減に取り組んでいます。また、CO₂排出量がトラック輸送より低いとされる鉄道や海運輸送へのモーダルシフト^{※5}も一部実施しています。

- ※1 **パインケミカル**: パインは「松」、ケミカルは「化学」であり、パインケミカルは、松の木から採れるロジン(松やに)、トル油、テレピン油などの有用な化学物質を扱う「松の化学」のことです。
- ※2 **粗トル油**: 製紙業界で使用されるパルプを製造する際に、副生する植物由来の油分(ロジン、脂肪酸が主成分)。
- ※3 **バイオマス**: 生物資源(bio)の量(mass)を表す概念で、一般的には「再生可能な、生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの」をバイオマスと呼んでいます。
- ※4 **再生可能エネルギー**: 石油・石炭などの限りある化石燃料と異なり太陽光や風といった自然現象が循環する中で取り出せるエネルギー。
- ※5 **モーダルシフト**: 自動車や航空機による輸送を、より環境負荷の小さい鉄道や船舶の輸送に切り替えること。

太陽光発電設備の稼働

ハリマ化成グループは、2014年12月、原料である粗トル油を陸揚げする伊保基地(兵庫県高砂市)に太陽光発電設備(発電能力1,129kW)の稼働を開始しています。同設備は「再生可能エネルギー固定価格買取制度(FIT)^{※6}」を活用しており、発電した電力はすべて電力会社に販売しています。

再生可能エネルギーである太陽光による発電を行うことで、政府が推進する自然エネルギーの普及・拡大やCO₂排出量の削減に貢献していきます。

■太陽光による発電量

- 2014年度:455,376kWh
- 2015年度:1,517,401kWh

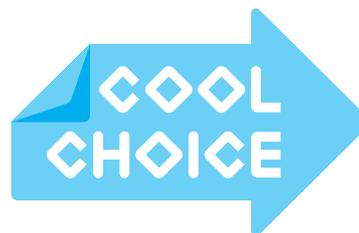


▲伊保基地に設置した太陽光パネル

※6 FIT:「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法」に基づく制度。

温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を促す国民運動「COOL CHOICE^{※7}」に賛同

2016年7月、ハリマ化成グループは、政府が進める省エネ・低炭素型の製品・サービス・行動などあらゆる「賢い選択」を促す国民運動「COOL CHOICE」に賛同しました。今後、その普及活動に協力していきます。



未来のために、いま選ぼう。

▲「COOL CHOICE」のロゴマーク

※7 **COOL CHOICE (クールチョイス)**: 日本が世界に誇る省エネ・低炭素型の製品・サービス・行動など、温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を促す国民運動です。例えば、エコカーを買う、エコ住宅を建てる、エコ家電にするという「選択」、高効率な照明に替える、公共交通機関を利用するという「選択」、クールビズをはじめ、低炭素なアクションを実践するというライフスタイルの「選択」などが「COOL CHOICE」です。みんなが一丸となって温暖化防止に資する選択を行ってもらうため、政府・産業界・労働界・自治体・NPOなどが連携して、広く国民に呼びかけています。

環境マネジメント

ハリマ化成は、環境方針を掲げISO14001に基づく環境マネジメントシステムを展開しています。全社の目的・目標に沿ってそれぞれの部門部署が年度目標を設定し、環境負荷の低減、環境保全活動を継続的に実施しています。

環境目標と実績

各テーマに対し中期環境目標(2020年度環境目標)を定め、その目標達成に向けて、年度ごとに具体的な目標を設定し、取り組みを推進しています。

2015年度実績と中期環境目標(2020年度環境目標)

評価基準 ◎：達成 ○：一部達成 △：取り組んでいるが目標達成に至らなかった ×：取り組みが不十分

テーマ	2015年度目標	2015年度実績	判定	関連ページ	2020年度目標
温暖化防止	電気使用量の前年比原単位1%削減	原単位：3.8%増加	×	P13-14	エネルギー原単位を毎年1%削減
	燃料使用量の前年比原単位1%削減	原単位：2.2%増加	×	P19-20	
	CO ₂ 排出量の前年比2%削減	CO ₂ 排出量：2.7%増加	×	P33	CO ₂ 排出量を1990年比25%削減
	物流データ集計の精度アップ	原単位：1.2%削減	◎		
資源の有効活用	廃棄物発生量の前年比4%削減	発生量：3.1%削減	△	P20	最終埋立処分量ゼロを継続
	ゼロエミッション※1の継続(0.0%)	ゼロエミッション達成(0.0%)	◎		
化学物質の管理	PRTR対象物質の大気排出量の前年比1%削減	大気排出量：0.5%増加	×	P34	化学物質管理システムによる一元管理
	環境関連規制の遵守	少量新規製造届出	◎	P21	
	化学物質管理システムによる原料・製品の管理	・SDS作成支援 ・システムの改良	◎		
危機管理	人身体業：0件	人身体業：0件	◎	P30	リスク管理による防災体制の充実
	人身不休：前年比半減(5件以下)	人身不休：7件(前年度比3件削減)	△	P33	
	公害防止の監視強化(環境苦情0件)	環境苦情：1件(前年度比1件削減)	△	P31	
	緊急対応マニュアルの整備	マニュアルの見直しと訓練の実施(各拠点)	◎		
その他	内部監査のレベルアップ	・重点監査実施項目の設定 ・注意事項の充実	○	P16	内部監査員のレベルアップ
	マニフェスト電子化の推進	一部の拠点で電子化運用中	○		マニフェスト電子化の推進
	環境教育についてeラーニングを活用	「悪臭・騒音・振動規制法」などの教材を揃えています	○		教育による環境意識の向上

集計範囲：ハリマ化成とハリマエムアイディ

※ ゼロエミッション：「ある産業から出る全ての廃棄物を他の分野の原料として活用し、あらゆる廃棄物をゼロにすることを旨とすることで新しい資源循環型社会の形成を目指す考え方」として国連大学で提唱された。ハリマ化成は、「事業所から発生する一般、産業廃棄物の総排出量に対する埋立量の割合を1%以下とする」ことを目指している。

※2 環境コミュニケーション大賞：優れた環境報告書などや環境活動レポートを表彰することにより、事業者などの環境コミュニケーションへの取り組みを促進するとともに、その質の向上を図ることを目的とする表彰制度。

運営方法

環境マネジメントシステムの運営にあたっては、環境方針、環境目的・目標に基づいた「PDCAサイクル」を確立し、このサイクルを繰り返すことで継続的な改善と環境に与える負荷の低減に努めています。

また、毎年6月の環境月間には「環境目的・目標発表会」を開催し達成状況を報告しています。発表のあった取り組み事例については、今後の参考とするためイントラネットで公開しています。



環境教育

社員一人ひとりの環境意識の向上を図るため、勉強会、講演会などを通じて継続的に環境教育・啓発を実施しています。

2015年度は、工場サイトの環境負荷実績報告会、省エネ勉強会、リサイクル勉強会などを開催しました。また、eラーニングシステムにおいて、環境に関する教材を選定し、環境教育に活用しています。

環境監査

ISO14001に関する外部審査を受審

毎年、ISO14001認証審査機関による外部審査を受けています。2015年度の外部審査の結果、登録維持に問題はないと判定され登録を継続しています。

ISO14001内部監査を実施

資格認定された監査員による内部監査では、環境マネジメントシステムが有効に運用されているか監査を実施しています。また、より効果的な監査を実施するため、毎回、内部監査員に重点的に監査する項目を指示しています。

環境コミュニケーション

ハリマ化成グループは、2003年に「環境報告書」を発行して以来、毎年、環境への取り組みを報告してきましたが、2006年からは「環境・社会報告書」として、社会への取り組みも報告に含めました。

今後も環境経営に関する活動の成果を、広くお伝えできるよう努めていきます。

Topics 環境コミュニケーション大賞において「優良賞」を受賞

ハリマ化成グループが2015年8月に発行した「環境・社会報告書2015」が、第19回環境コミュニケーション大賞※2(主催：環境省、一般財団法人地球・人間環境フォーラム)の環境報告部門で「優良賞」を受賞しました。環境や社会の情報開示が重要度を増す中、企業価値の向上を図り、今後も充実した報告書の発行に努めていきます。



▲環境コミュニケーション大賞表彰式(2016.2.24)

関係会社の取り組み

中国から

杭州杭化哈利瑪化工有限公司

従業員への教育

中国では、深刻な環境汚染の改善をめざして、環境規制が強化されています。

杭州杭化哈利瑪化は、事業所がある浙江省杭州市蕭山区の環境保全局が主催する大



▲大気汚染防止法に関する勉強会(2016.4)

気汚染防止法に関する勉強会に参加するなど、環境汚染解消に向けた知識のレベルアップを図っています。

日本から

株式会社日本フィラーメタルズ

環境管理の向上

日本フィラーメタルズは、ISO14001などの環境マネジメントシステムを導入し、内部監査を実施するとともに、外部の認証機関による審査を受け、環境管理レベルの向上を図っています。



▲ISO14001認証機関による審査(2016.5.18)

また、毎月、環境関連のチェック項目を盛り込んだ安全・品質・環境パトロールを実施しており、不備箇所があれば改善しています。

環境配慮商品の開発

ハリマ化成は、「自然の恵みをくらしに活かす」を企業理念とし、人と環境にやさしく、循環型社会の形成を目指したものづくりを実践するため、環境配慮のポイントを明確にした研究開発を進めています。

環境配慮商品の説明

【1】トール油系原料を使用したインキ用樹脂

平版印刷インキは植物インキへの切り替えが進み、石油系溶剤を使用しない環境配慮型印刷インキへの切り替えが進んでいます。また、印刷インキのバイオマス比率も環境配慮の貢献度を表す指標として注目されています。

ハリマ化成では、非可食バイオマス※1原料であるトール油から精製されるトール油ロジン、脂肪酸を用いて、印刷インキ用樹脂の開発を進めています。トール油系原料の導入により、インキ中のバイオマス比率が上がるとともに、性能面では顔料分散性の向上やインキの低タック化などの特徴が期待できます。



環境ポイント **バイオマス資源活用** **省資源** **廃棄物削減** **VOC対策** ※1

【2】粘着付与剤

食品ラベルなどに使われる粘着剤は水系が主流ですが、ハリマ化成は、従来から販売している溶剤可溶型粘着剤に加えて、エマルジョン型の粘着付与剤についても製品を取りそろえています。その中でも、独自の製造技術を駆使した、溶剤を全く使用しない完全無溶剤型製品を拡充しています。さらに、完全無溶剤では製造することが難しい、粘着性能の高い樹脂を用いたエマルジョン型粘着付与剤の開発に注力しています。



環境ポイント **温暖化防止** **バイオマス資源活用** **省資源** **VOC対策**

【3】表面サイズ剤

紙は情報記録媒体として、いまだ重要な地位を占め、技術革新が進んでいます。例えば新聞や雑誌は、昔に比べると古紙の配合比率や紙中の灰分が増え、厚みも薄くなっています。環境にはやさしいものの、薄い紙は裏面の印刷物が透け易く、印刷品位も得られ難くなります。これには、紙に塗布して印刷適性や適度な耐水性を与える薬品、表面サイズ剤が使われます。

紙、インキ、印刷方式には多くの種類があり、それぞれ環境対応が進んでいます。ハリマ化成の表面サイズ剤「ハーサイズ」は、さまざまな用途で美しい印刷物が得られるよう、進歩を続けています。



環境ポイント **省資源** **リサイクル** **軽量化**

特に、「地球温暖化対策」としてCO₂排出量の削減へつながるバイオマス原料を積極的に活用し、自然環境に負荷の少ない商品、使用時に省エネルギーや廃棄物の削減に貢献する商品の開発に注力しています。

- ※1 非可食バイオマス：再生可能な生物由来の資源であるバイオマスのうち、食糧と競合しないもの。食糧と競合するパーム油、菜種油、大豆油などと違って、食糧として用いることのできないマフア油、ジャトロファ油などの非可食油や、セルロースなどの木質系バイオマス、微細藻類などがある。
- ※2 VOC (Volatile Organic Compounds)：揮発性有機化合物。常温常圧で大気中に容易に揮発する有機化学物質の総称。洗浄剤や溶剤、燃料として産業界で幅広く使用されています。しかし、大気や公共用水域や地下水などへ放出されると、公害や健康被害を引き起こすことから、改正大気汚染防止法により主要な排出施設への規制が行われています。

【4】ハロゲンフリーソルダペースト

塩素や臭素などのハロゲンは、ダイオキシン発生のもととなり、ガンなどの健康被害を起こす懸念があるため、使用を低減する動きが活発になっています。

ソルダペーストには、従来、良好なはんだ付け性を得るためにハロゲン化合物が含有されていましたが、ハリマ化成は、ハロゲン低減の動きに迅速に対応し、ハロゲンを全く使用しないハロゲンフリータイプの鉛フリーソルダペーストを開発し、日本だけでなく世界中の多くのお客様にご使用いただいています。

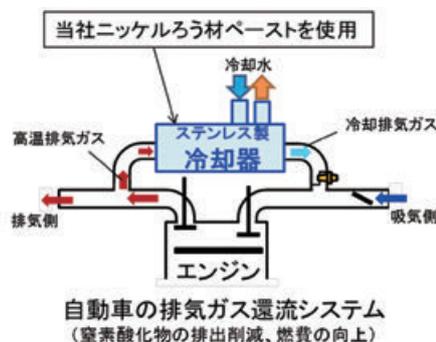


環境ポイント 温暖化防止 発ガリスク低減

【5】ニッケルろう材ペースト(ステンレス用接合剤)

ガソリン自動車などの排気ガスには、窒素酸化物などの有害な成分が含まれています。それをできる限り浄化して大気に出すことが必要ですが、その一つに「排気ガス還流システム」という方式があります。この方式は、排気ガスの浄化だけでなく燃費向上も可能とするもので、システムにステンレス製の冷却器を搭載しています。そして、冷却器の製造にはハリマ化成のニッケルろう材ペーストが使用されています。

ハリマ化成のニッケルろう材ペーストは、冷却器のような複雑な構造物でも大量生産を可能とすることで、地球環境の保全に一役買っています。



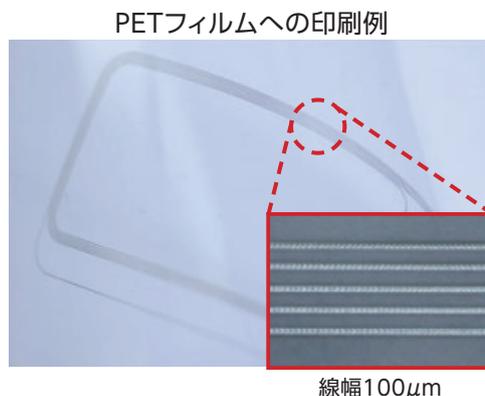
環境ポイント 温暖化防止 省資源 VOC対策

【6】低温焼成型ナノペースト

印刷技術を利用して電子回路などを形成するプリンテッドエレクトロニクスは、低コスト化、生産性向上が期待されています。

ナノサイズの金属微粒子を使ったナノペーストは、印刷用の導電性インクとして薄くて微細な回路を形成できます。露光・現像・エッチングの必要がないため、有害な廃液の排出量削減と、製造工程の短縮が可能となります。また、120℃の低温で焼成することで電気を流せるため省エネルギーにも貢献できます。

ナノペーストは環境にやさしい電子材料として、フレキシブル性や軽量化の要求が高まる電子機器類への適用が期待されています。



環境ポイント 省エネ 省資源 軽量化 廃棄物削減

環境負荷低減への取り組み

ハリマ化成グループは、資材の調達、生産、廃棄、リサイクルに至るまでの事業活動において、環境に与える影響を正確に把握することに努めています。

- ※1 COD: 化学的酸素要求量。水中の汚染物質を化学的に酸化し安定させるのに必要な酸素の量。数値が高いほど水が汚れていることとなります。
- ※2 NO_x: ボイラーや焼却炉などの燃焼排ガスに含まれる窒素の酸化物。紫外線によって光化学反応を起こし、光化学オキシダントの原因となる。
- ※3 SO_x: ボイラーや焼却炉などの燃焼排ガスに含まれる硫黄酸化物。酸性雨の一因にもなります。

環境負荷フローチャート

INPUT

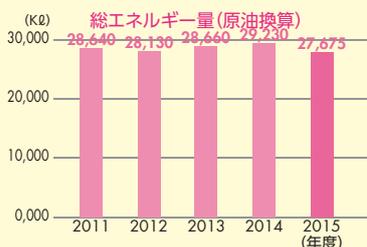
原材料

114千t



エネルギー

電力 19,900MWh
化石燃料 6,085Kℓ
バイオ燃料 16,500Kℓ



水

上水道 45千m³
工業用水 217千m³
地下水 857千m³



ハリマ化成グループ(国内)事業活動

集計範囲:
ハリマ化成、ハリマエムアイディ、セブンリバー、
ハリマ化成商事、日本フィラーメタルズ

OUTPUT

製品

144千t



電力

売電量 4,831MWh



水域

排水量 764千m³
COD※1 3.4t



大気

CO₂ 15,157t



※2 NO_x 44t ※3 SO_x 11t



廃棄物

社外排出量 2,062t



(注) 原材料および製品量算定方法について、2011年度より集計方法を見直しました。

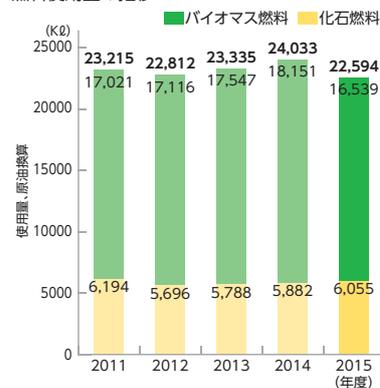
ハリマ化成グループは、事業活動にともない発生する環境負荷物質の低減に積極的に取り組んでいます。また、循環型社会形成を目指した取り組みのひとつとして廃棄物の減量、リサイクルの推進、適正管理に努めています。

環境負荷物質の低減

燃料の使用量

2015年度は、2014年度に比べバイオマス発電設備以外のボイラーにおいて、灯油の使用が増加したため、化石燃料が増加しました。その結果、CO₂排出量は増加しています。燃料の天然ガス化への転換を推進し、徹底した省エネ活動に取り組み、引き続き環境負荷物質の低減を進めていきます。

燃料使用量の推移



NO_x、SO_xおよびCODの発生量

2015年度は、2014年度に比べボイラー稼働減によりNO_x、SO_xともに減少しました。

排水については、排水量は減少していますがCODは変動していません。今後もNO_x、SO_x、CODの監視を強化し、削減対策を講じていきます。

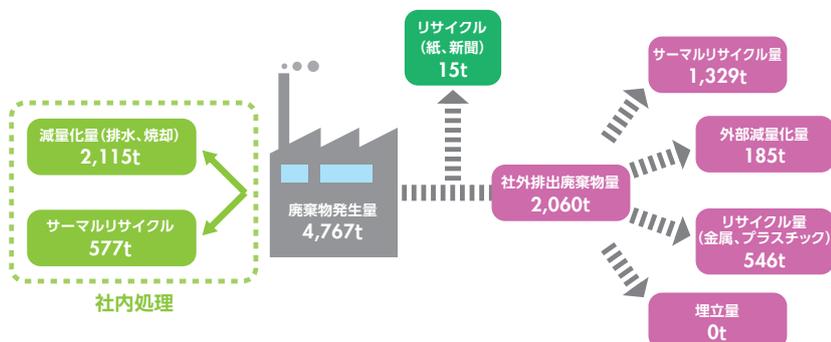
集計範囲：ハリマ化成、ハリマエムアイディ、セブンリバー、ハリマ化成商事、日本フィラーメタルズ

廃棄物の削減

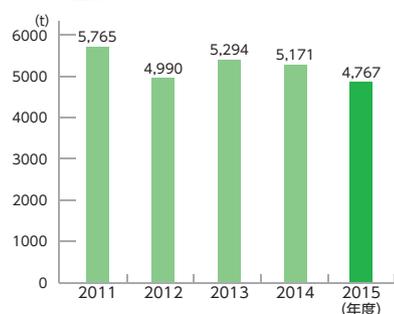
廃棄物発生量の内訳と推移

集計範囲：ハリマ化成とハリマエムアイディ

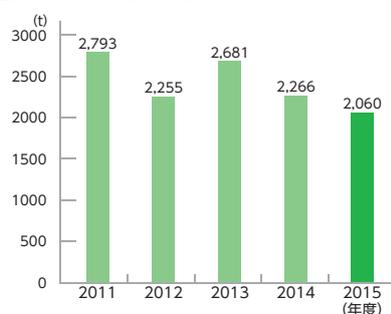
2015年度廃棄物フローと結果



廃棄物発生量の推移



社外排出廃棄物量の推移



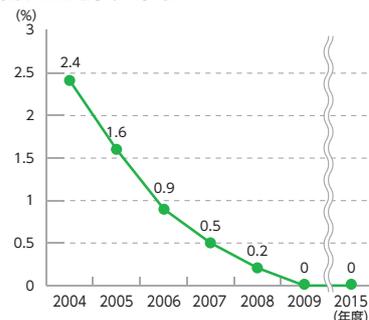
ゼロエミッション^{※4}

ゼロエミッション継続中

過去、最終埋立処分率は2%以上で推移していました。埋立処分のほとんどはバイオマス燃料の焼却灰^{※5}であり、Na、Kを多く含むため、埋立処分となっていました。種々検討の結果、2005年度からセメントへの利用が可能となり、リサイクルできるようになったため、2007年度より最終最終処分率が1%以下となり、ゼロエミッションを達成しました。

2010年度には、廃ガラスのリサイクル処理も可能となり、2011年度は、さらに削減を進めて最終埋立量がゼロとなりました。今後も0%を継続していきます。

最終埋立処分率の推移



集計範囲：ハリマ化成とハリマエムアイディ

※4 ゼロエミッション：「ある産業から出る全ての廃棄物を他の分野の原料として活用し、あらゆる廃棄物をゼロにすることを旨とする新しい資源循環型社会の形成を目指す考え方」として国連大学で提唱された。ハリマ化成は、「事業所から発生する一般、産業廃棄物の総排出量に対する埋立量の割合を1%以下とする」ことを目指しています。
 ※5 バイオマスボイラー焼却灰：バイオマスボイラーの燃料であるトール油副産物は、工程上、石鹼の酸分解を含むため、硫酸ナトリウムを多く含んでいる(灰分約1%)。このため、セメントへの資源化ができず埋立処分していました。

化学物質の管理

ハリマ化成グループは多くの化学物質を使用していますが、それらを適正に管理し、化学物質による環境汚染の防止と、環境負荷の低減を図っていくことは企業の社会的責任です。海外を含めた法規制への対応に取り組んでいます。

化学物質管理の取り組み

取り扱う化学物質を的確に把握するため、製造する製品のみならず原料、副生物、廃棄物に至るまで、人への有害性、環境への影響について事前にチェックし、厳しく管理しています。

化学物質管理体制



各種法規制への対応

グリーン調達の推進

「グリーン調達運用基準」を制定し、原料や資材を調達するお取引先とともに環境保全と製品の環境配慮性向上に取り組んでいます。

化学物質管理システム

製品の組成情報や安全性情報、法規制情報などを適切に管理し、有効に活用するため、「化学物質管理システム」を導入しています。製品中の含有物質に関するお客様からのお問い合わせや法規制対象物質の含有確認、GHS※4に対応するSDSの作成などに活用しています。また、海外の関係会社への展開も進めています。

海外法規制への対応

REACH規則※5の対応や中国新化学物質環境管理弁法※6の施行、CLP規則※7の届出など、複雑化する化学物質情報を正確に把握し、各国の連携を強化しながら、確実に対応を進めています。

安全保障貿易管理

日本をはじめとする先進国が保有する高度な製品や技術が、日本および国際社会の安全性を脅かす国家やテロリストにわたることを防ぐため、日本では安全保障貿易関連法令のもとで、企業みずからが輸出先や使用用途を確認することが義務付けられています。

化学物質などを輸出しているハリマ化成グループは、事業会社であるハリマ化成に設置している「安全保障貿易管理委員会」を中心に安全保障貿易管理を適切に実施しています。また、社内勉強会を開催し、従業員に周知を図っています。

紛争鉱物への対応

コンゴ民主共和国およびその周辺国において、武装勢力による一般市民への非人道的な行為や環境破壊が大きな問題になっています。武装勢力は、不法に採掘したタンタル、錫、金、タングステンといった鉱物(紛争鉱物)を資金源としていることから、紛争鉱物の使用に対して企業の適切な対応が強く求められています。

ハリマ化成グループは、現在までの調査において、原材料に当該地域で採掘された鉱物の不使用を確認しています。今後も、新規原料採用時の調査・確認を継続し、取り組みを強化していきます。

- ※1 SDS(Safety Data Sheet) : 「安全データシート」とも呼ばれ、化学物質を安全に取り扱うために必要な情報を記載したもの。
- ※2 イエローカード : 「化学品の輸送中の事故に備え、化学品の適用法令、性状、応急処置や消防、警察、製造会社への通報連絡先などを簡潔に記載した黄色地のカードです。
- ※3 MSDSplus : アーティクルマネジメント推進協議会が推奨する製品含有化学物質情報の伝達シート。
- ※4 GHS(Globally Harmonized System of Classification and Labeling of Chemicals) : 化学品の危険有害性を一定の基準に従って分類し、絵表示などを用いてわかりやすく表示し、その結果を製品ラベルやSDSに反映させ、災害防止および人の健康や環境の保護に役立てようとするものです。
- ※5 REACH(Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals) : 欧州連合における人の健康や環境保護のために化学物質とその使用を管理する欧州議会および欧州理事会規則。
- ※6 中国新化学物質環境管理弁法 : 中国で製造・輸入する化学物質の管理について定めた法律。
- ※7 CLP(Classification, Labelling and Packaging of substances and mixtures) : 物質および混合物の分類・表示・包装に関する欧州議会および欧州理事会規則。